

〔目的〕 洗濯ネットは衣料の損傷を軽減する洗濯用具として、一般家庭で広く利用されているが、近年特に種々の形態のものが市販され、家庭での所持率や所持枚数も増加傾向にある。我々は洗濯機・衣料・洗剤の動向を考慮しながら、合理的な家庭洗濯を行なう上で洗濯ネットの適切な使用方法を明らかにすることを目的として検討を行なった。

〔方法〕 各種市販洗濯ネットを用いて、二槽式洗濯機（標準・弱水流）、新水流型全自動洗濯機（標準・弱・手洗い水流）により、編地（毛 100%，20cm×20cm）の面積収縮率および綿金巾のほつれ率を求め衣料の損傷を検討した。また、衣料に加わる機械力および洗いむらは JIS C9608 に準じ、カーボンブラック配合人工汚垢布の洗浄度より求めた。洗浄力は天然衿汚垢布および水分散媒人工汚垢布 *より求めた。

〔結果〕 ①編地の面積収縮率、綿金巾のほつれ率でみた衣料の損傷は、洗濯ネットを使用した場合には、未使用時に比べ標準水流、弱水流で洗った場合共に減少するが、洗浄力も低下する。また、標準水流でネットを使用した場合には、弱水流でネット未使用の場合に比べ、衣料の損傷は増大し洗浄力も向上する。②洗濯ネットを使用した場合には、未使用時に比べ洗いむらが生じやすい。③洗濯ネットに入れる衣料の量により、損傷の程度、洗浄力は異なり、衣料が増加するにつれて損傷は軽減されるが、洗浄力は低下し洗いむらが顕著となる。④酵素配合洗剤による予浸洗浄や液体洗剤による塗布洗浄を行った場合には、洗濯ネットを使用しても、洗濯ネット未使用時のこれらの洗剤による通常洗浄に比べて高い洗浄力が得られ、洗いむらも軽減される。 ※ 奥村ら；油化学，30,432(1981)